



ある 歩いているのに、つきは どうして ついてくるの

つきは ついてこない

つきを見ながらある歩いていると、つきが、どこまでもついてくるように、みえることがあります。これは、つきが本当についてくるわけではなく、そのようにみえるだけなのです。

このことを確かめるために、次のような観察をしてみると、よくわかります。

つきで、がっこうの校庭などにあるきを木印にして、つきの位置を確認します。ゆっくりと、30メートルぐらい歩いてから、つきと木を見ます。

30メートルある歩いたので、きのみかたの見え方がちがってきます。しかし、つきの位置は、あるまへと、まったくかわっていません。まるでつきが後をついてきたように、まへおなじほうこうみえます。

「つきがついてきた」ようにみえる

30メートルある歩いた後でも、つきがおなじほうこうみえるのは、つきが木の位置に比べて、比べることができないほど、遠くにあるからです。地球から月までのきよりは、約38万キロメートルもはなれています。それで、30メートルある歩いても、つきの見えるほうこうは変わらないのです。

わたしたちの目には、ある歩いた後で、きがいちかが変わったように、つきの位置が変わって見えないので、「つきが自分についてきた」ようにみえるのです。（監修・国司 真）

